



学校だより

令和4年6月30日

No. 4 7月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

「体験」をあらためて大切に

校長 金子 博美

木々の緑が生い茂る季節、子どもたちが世話をしている朝顔や野菜もぐんと大きくなりました。まだまだ対策を講じた上ではありますが、今年度は、宿泊体験学習や社会科見学等も今のところ実施の方向で一つ一つ進んでいます。皆様のご理解ご協力に心より感謝申し上げます。

6年生の日光修学旅行も無事に実施することができました。一日目、午前中は雨雲の様子をうかがいながらではありましたが、午後のハイキングの頃には、空模様を気にすることもなく晴れ間もみえ、戦場ヶ原の自然を十分に味わうことができました。二日目は、日光東照宮などを巡りました。子どもたちは、ガイドさんの案内のもと、一つ一つ興味深く見学していました。

「ふくべ細工」も体験しました。この時も、地元の方の説明をよく聞いていました。作業開始となると、準備してきた図案をもとにさっと制作に取り掛かる姿を見て、事前学習がいきているなと思いました。作業が進むにつれ、友達と手順を確認したり、作品の途中経過を見せ合ったりする姿も見られました。限られた時間の中でも実際につくることを楽しみ、思い思いの作品を仕上げていました。



「ふくべ細工」とは、成熟した夕顔（ふくべ）の果肉を取り除き、外皮を乾燥させたものを材料としてつくられます。ふくべの形を活かして、墨入れや花器、小物入れなどに加工されるほか、表面に色鮮やかに絵付けされた人形や伝説の百目鬼（どうめぎ）をもとにした魔除けの面などが土産品として有名です。

6年生は、日頃から気持ちのよいあいさつを心がける子どもとても多く、最高学年としてしっかり行動しようという頼もしさも感じます。2日間の様々な「体験」で見せた一人ひとりの表情や「5分前行動」のために互いに声をかけ合う姿から、そのよさをより一層感じました。

6月14日には、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が行われました。本校の代表として6年1組羽生衣那さんが出場しました。昨年度はビデオ審査でしたが今年度は港北公会堂での実施。校内選考も含め、相手に自分の思いを伝える貴重な「体験」となったのではないのでしょうか。

今後も、一つでも多くの「体験」からできるだけ多くのことを学ぶ学校でありたいと思っています。

※羽生さん自身の体験をもとに感じた「言語の壁」についてのスピーチ、後半部分をご紹介します。

～「言語」は、人と人の間に大きなかべを作ってしまう。言語が違うからと言って差別するのはどうなのでしょう。それでみんな幸せになれるのでしょうか。私はまだ子どもですが知っています。言語が違って、みんな「幸せ」という一つの目標に向けて一緒にがんばる人達なのです。みんながそれを自覚するには、やはり、国境、言語、人種などによって差別しないことが求められます。だから私は、日本人でも外国人でも、相手の言葉がわからなくても身振り手振りで、困っている人を見たら声をかけて助けようと思います。最後にもう一度言います。言語が違って一生懸命伝えようとするのが大事であり、みんなが幸せになれる道なのです。